

## 長崎県における地域資源活用のための経営者ならびに人材育成に関する研究

研究期間 平成 28 年度 ～ 平成 30 年度

研究代表者名 三戸 浩

共同研究者名 代田 義勝

津久井 稲緒

四本 雅人

齋藤 毅

中村 貴治

### I. 本年度研究の目的

本年度学長裁量教育研究では、共同研究の各メンバーが着任初年度であることも踏まえ、継続研究の初年度として適切なテーマ設定を行うために、資料収集や長崎県内を中心とする地域への視察・ヒアリング、関係者との関係づくりを主たる目的とした。

その成果として、各地域の“地域リーダー”と呼べる地域活性化の担い手の存在に着目し、地域の活動を、彼らを軸とした諸システムの総体として捉え分析する視点など、次年度に向けたテーマが得られている。各自の得られたテーマをもとに、次年度以降の成果へとつなげていくこととしたい。

### II. 本年度研究の内容

まず、本年度研究の主な内容として、各メンバーが地域や企業・団体へ行った視察・ヒアリングの例を以下に挙げる。

#### 1. 波佐見地域視察・ヒアリング、学内講演会の開催

長崎県を代表する陶磁器産地の一つであり、製品を波佐見焼として全国にブランド展開するなど、地域の活性化事例として注目される波佐見地域の視察を継続している。

特に、波佐見町の有志が毎月一度一堂に会して各自の取り組みを共有する「朝飯会」には、共同研究メンバー複数人で継続的に出席し、地域の事業者等と 10 回程度のヒアリングや関係づくりを行った。その成果は、2016 年 12 月 16 日に経営学部教員・学生へ向けて、波佐見地域における“地域リーダー”である西海陶器株式会社児玉盛介氏を招聘した講演会、「波佐見再生のストーリー」の開催へとつながっており、研究内容の教育への還元となると共に、今後の研究への足掛かりとなっている。

## 2. 県内外道の駅・直売所等視察およびヒアリング、地域活性化協議会等への参加

### (1) 道の駅・直売所等への視察・ヒアリング

各地域の取り組みの把握として、佐世保・松浦・平戸・伊万里など県内外各地域の道の駅・直売所等への視察・ヒアリングを行った。以下はその一例である。

【佐世保】①道の駅「させぼつくす 99」、②なかよし村、

③吉井活性化センター「ソレイユ吉井」

【松 浦】④道の駅「松浦海のふるさと館」、⑤道の駅「元寇・ロマンの郷」、

⑥道の駅「鷹ら島」、⑦佐々皿山直売所、⑧鷹島肥前大橋展望台広場

【平 戸】⑨道の駅「昆虫の里たびら」

【伊万里】⑩道の駅「伊万里」 等

### (2) 各地域の活性化に関する協議会等への参加

① 道の駅「昆虫の里たびら」活性化協議会第 3 回事業部会参加。

② 県北地区農産物直売所ネットワーク役員会出席。

③ 東彼杵町役場にて、道の駅や商店街、お茶産業の活性化等を目的とした研究教育

に関する大学との連携について懇談。

## 3. 県内外の大学における経営者および人材教育の取り組みに関する視察・ヒアリング

### (1) 高知大学視察・ヒアリング

2015 年 4 月に地域協働学部を新設し、地域の事業者と緊密に連携した先進的な大学教育を実践している高知大学を視察し、学部長、副学部長らへのヒアリングを行った。当学部での取り組みとして、カリキュラム課程において学生のみならず事業者も対象としたワークショップを行うなど、事業者を単に学生の受け入れ先としてのみ扱わず、学生と地域の事業者との相乗的な教育効果を生んでいる点に特色があるなど、今後の研究への知見が得られている。

### (2) 各研究者からの情報収集

また、地域との協働および地域に求められる人材教育の在り方について、他大学の研究者へのヒアリングを重ね、今後の地域と連携した研究の方向性、人材教育の

実際の取り組みに関して情報収集を行った。

### Ⅲ. 次年度以降の研究に向けて

前節の視察・ヒアリングの成果として得られた、各メンバーの研究テーマを以下に挙げる。これらへの取り組みにより、次年度以降の研究成果へとつなげていきたい。

#### 1. 地域活性化への経営システムの観点からの考察

##### (1) 地域リーダーを軸としたステークホルダーテーブルの作成

地域活性化の要である“地域リーダー”を軸として、彼らが地域のステークホルダーとどのような関係を結んでいるのか、ステークホルダーテーブルを作成し整理する。経営者とステークホルダーの関係を、市場ではなく地域という観点から描写したい。また、各地域のテーブルを比較検討することにより、地域ごとの特色を浮き彫りにし、経営者を軸とした地域活性化モデルのモデル構築の考察へとつなげたい。

##### (2) 地域リーダー・モデルの構築

県民所得の低迷、人口の流出・減少等、地域課題山積の長崎県であるが、そのような逆境にもかかわらず、波佐見窯業地域の児玉氏、させぼ四ヶ町商店街の竹本氏、松浦道の駅の上田氏等、優れたリーダーを擁している地域・組織は頗る元気がいい。逆境を逆手に取るリーダーの意思決定行動、影響力、関係性構築、情報伝達等はどうなものか、そのモデル構築の可能性を検討する。

#### 2. 長崎県の地域課題に関する研究

##### (1) 農産物直売所・道の駅の歴史と今後の展望の考察

農産物直売所や道の駅について、「地域資源」と「地域に対する役割責任」という二つの観点からその変遷を整理する。直売所・道の駅を市場および地域の二つの観点から整理することにより、農産物直売所や道の駅という地域資源の、これまでの展開の把握と今後の方向性や意義の検討が可能になると考える。

##### (2) 長崎県北地域における公共交通機関のありかた

経営学科地域実践科目のテーマとして取り上げる「地域交通」に関連し、教育・研究が一体となって、地域の重要課題の一つである公共交通機関の在り方を検討し

たい。

### (3) P. F. Drucker 理論からの地域活性化の分析

実践的な経営学として有効なドラッカー理論を用いて、長崎県内地域活性化の成功事例と不振事例の分析を行う。

## 3. 大学教育と経営者・人材育成

### (1) 地域活性化と大学教育・研究

地域活性化を課題とする本学部・学科への研究成果の還元を狙いとして、他大学の地域関連の教育・研究の事例・情報収集を行い、“地域活性化と大学教育・研究”として研究をまとめたい。

### (2) 地域の経営人材の育成

各地域の経営者による実践と、各大学の教育の実態を事例として、地域課題を発見・分析・解決する経営人材の育成方法を経営学的な知見をもとに探っていく。

### **【主要参考文献】**

- 岡田豊（2013）『地域活性化ビジネス』東洋経済新報社
- 加護野忠雄・山田幸三（2016）『日本のビジネスシステム』有斐閣
- 木下斉（2016）『地方創生大全』東洋経済新報社
- 忽那健治・山田幸三編著（2016）『地域創生イノベーション』中央経済社
- 関満博（2016）『道の駅／地域産業振興と交流の拠点（増補版）』新評論
- 高橋勇悦・内藤辰美編著（2009）『地域社会の新しい<共同>とリーダー』恒星社厚生閣
- 高原康彦・中野文平（1991）『経営システム』日刊工業新聞社
- 但馬英知・田丸修・牧野光琢（2015）「ステークホルダー分析を用いた藻場周辺域における利害構造の地域間比較」『沿岸域学会誌』27（4），pp.77-88。
- P.F.ドラッカー（2008, 原著 1946）『企業とは何か』ダイヤモンド社
- P.F.ドラッカー（2008, 原著 1974）『マネジメント』ダイヤモンド社
- 長崎県立大学学長プロジェクト編（2016）『波佐見焼ブランドへの道程』石風社
- 長崎県立大学編集委員会編（2017）『創る×まち 育てる×ひと 地域創造と大学』長崎新聞社
- 澁上克義（2002）『リーダーシップの社会心理学』ナカニシヤ出版

松尾匡・西川芳昭・伊佐淳編著（2005）『市民参加のまちづくり【戦略編】』創成社  
森栗茂一（2013）『コミュニティ交通のつくりかた』学芸出版社  
山田幸三（2013）『伝統産地の経営学』有斐閣  
長崎県「直売所情報」長崎県 URL <http://www.pref.nagasaki.jp/tisan/shop/>